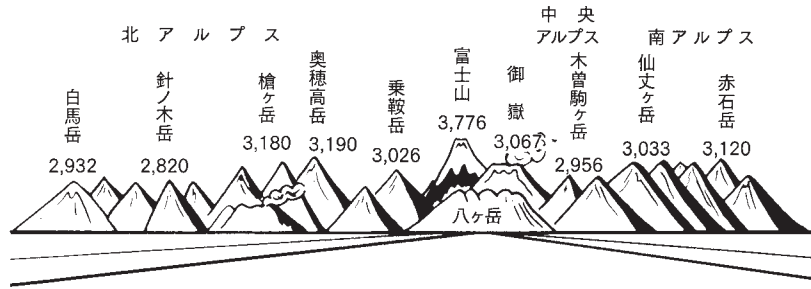


第 63 号
平成30年10月



砂防ニュースレター「長野」



第39号石堰堤 (山ノ内町夜間瀬川 大正13年竣工)
 [「歴史から学ぶ 地域防災」夜間瀬川直轄砂防施工100周年記念シンポジウム開催
 日時：平成30年11月8日 (木) 13:30～ 会場：山ノ内町文化センター3階ホール]

目次

全国治水砂防協会通常総会開催 2	着任の挨拶：湯沢砂防事務所長 8
長野県治水砂防協会通常総会開催 3	着任の挨拶：松本砂防事務所長 9
緊急提言の要望活動を実施 4	着任の挨拶：多治見砂防国道事務所長 10
思い出深き「砂防」 5	砂防ボランティアだより 11
自然災害多発時代をふりかえる 6	長野県砂防課人事異動
着任の挨拶：富士川砂防事務所長 7	長野県治水砂防協会行事等経過・予定 12

全国治水砂防協会通常総会が開催される



綿貫全国協会会長が議長を務め開催された総会



唐木南箕輪村長への協会表彰

平成30年5月24日、(一社)全国治水砂防協会の第82回通常総会がシェーンバッハ・サボーにおいて、来賓として衆参国會議員並びに国土交通省等関係者など多数の方々の御臨席を賜り、盛会裏に開催されました。本県からは、藤澤泰彦会長をはじめ総勢88名(うち会員市町村長37名)の方に御出席いただきました。

総会に先立ち、平野啓子氏から「熊本地震 復興への祈り 阿蘇・熊本城」と題して、特別講演が行われました。

総会では、あきもと司国土交通副大臣をはじめ、来賓の方々の御祝辞に続き、議案が審議され、平成29年度事業報告・収支決算報告、平成30年度事業計画・収支予算案について、いずれも原案どおり、全会一致で承認されました。

続いて行われた表彰式では、唐木一直南箕輪村長(元長野県治水砂防協会副会長)が長年にわたる砂防事業の推進に係る功績に対して、協会表彰を受賞されました。



講師の栗原砂防部長



講師の岡本理事長

午後からは、砂防事業の理解を深めていただくため、県協会主催で砂防講演会及び意見交換会を開催しました。

今年の砂防講演会では、栗原淳一国土交通省水管理・国土保全局砂防部長から「砂防堰堤の歴史」、岡本正男(一社)全国治水砂防協会理事長から「砂防の楽しい話」と題して、御講演をいただきました。

講演会に引き続いて、田村圭司利根川水系砂防事務所長、萬徳昌昭富士川砂防事務所長、赤沼隼一湯沢砂防事務所長、石田孝司松本砂防事務所長、植野利康多治見砂防国道事務所長、椎葉秀作天竜川上流河川事務所長の6直轄砂防事務所長と田下県砂防課長から各所の事業概要等について話題を提供いただきました。

多数の皆様にご参加いただき、この場をお借りして御礼申し上げます。



立錫の余地なく大盛況だった砂防講演会

長野県治水砂防協会第80回通常総会が開催される

平成30年8月3日、長野市内で第80回通常総会が多数の御来賓の方々をはじめ会員市町村長並びに関係者御出席のもと、開催されました。

藤澤泰彦会長の挨拶で開会した通常総会では、最初に、協会役員として、また会員村長として永年にわたり砂防事業の推進に御尽力いただいた、伊藤博文前県協会副会長（前小川村長）と松島貞治元下伊那支部長（前泰阜村長）の御二方への砂防功労者表彰が行われました。

議事に先立ち、御来賓を代表して、務台俊介衆議院議員、太田昌孝衆議院議員、杉尾秀哉参議院議員、栗原淳一国土交通省水管理・国土保全局砂防部長、西山幸治（一社）全国治水砂防協会技術顧問、小池清長野県議会危機管理建設委員長、長谷川朋弘長野県建設部長の皆様から御祝辞をいただきました。議事では、平成29年度事業報告及び歳入歳出決算報告、平成30年度事業計画・収支予算案、小池平谷村長の副会長選任案が審議され、いずれも原案どおり承認されました。



議事に引き続き、秋の砂防促進大会時に関係機関に対して、砂防事業の促進に向け課題解決のために必要な要望事項の決議を承認いただきました。今年、さらに、西日本豪雨災害等を踏まえ、頻発・激甚化する豪雨災害等から住民の生命・財産を守るための対策についての緊急提言も承認されました。



謝辞を述べられる伊藤氏、松島氏

引き続き、開催された砂防講演会では、栗原砂防部長から「砂防行政に関する最近の話題」、西山技術顧問から「安全な地域づくりと砂防」と題して御講演いただくとともに、国土交通省の6直轄砂防事務所長と田下県砂防課長から話題を提供いただきました。

お忙しい中、多数の皆様にご出席いただき、この場をお借りして御礼申し上げます。



御出席いただいた来賓の皆様

緊急提言の要望活動を行いました

平成30年8月28日に長野県治水砂防協会と長野県河川協会共同で、各通常総会で承認された緊急提言の要望活動を行いました。当日は、藤澤泰彦県協会会長はじめ協会役員等19名で、県関係国会議員、国土交通省、財務省に伺い要望書を手渡すとともに、長野県内の災害の状況や砂防事業の効果、今後の取り組み等について意見交換を行いました。



吉田博美参議院議員に要望書を手渡す



阪田渉財務省主計局次長に要望書を手渡す



塚原浩一国土交通省水管理・国土保全局長に要望書を手渡す

思い出深き「砂防」

前泰阜村長 松島 貞治



下伊那の南西部は、山深く急峻な地形で平地の少ない所ですが、中でも泰阜村はその代表的な村です。みんな斜面にへばりついて暮らしています。それだけに砂防と関わりが深いように思われますが、実は縁遠い村です。災害を思い出すと、昭和43年の伊勢湾台風、昭和36年の豪雨、そして昭和58年の大豪雨がありました。特に、58年は、大変な被害を受けました。道路が寸断されたため村民生活へ大影響がありました。公共施設や家屋が壊滅的な被害を受けたということはなかったものです。砂防事業は、人命、財産を守ることが最優先だと思いますが、貧しい村でありながら人命を失うような災害を何とか逃れてきたため、役場職員でも砂防で村を守る、という感覚がなかったと思います。そんな私が村長になりました。もともと土木、建設関係の仕事も担当したこともなく、村長になっての公的は、在宅福祉でした。当然ながら砂防は違う世界のことでしたが、ただ、公共工事では、道路事情が悪く、幹線道路の改良だけは進めなくては行けないと考えていました。したがって、砂防関係の会議、大会があると、無理して行くこともないと思っていましたが、先輩たちが行くので一緒に参加していたように思います。砂防会議の時、木曾の皆さんの「夕べは、直轄砂防の〇〇さんと飲んだ」といった話を聞くと、ふ～ん、という感じで、そもそも直轄ということがよく分かりませんでした。それでも参加しているうちに、長野県の砂防協会の歴史も知り、国の砂防部、砂防関係の力との交流もあるし、飲み会も盛大だし、たまにはいいなあと思うようになりました。

そして10年前くらいでしょうか。5月恒例の東京での長野県治水砂防協会の懇親会の席に、少し早く着きました。早い時間で到着しているのは建設事務所の所長さんや県職員がほとんどでした。その時一人の女性が立ち上がり「あなたたち、今日はお客様じゃないんだからよくわきまなさいよ」と指示するではありませんか。すごいなあ、とその姿に感動しました。その女性が事務局のTさんでした。その時以来、大砂防ファンになりました。実は、私も職員に同じようなことを言ってきたのです。何も村長がそこまで、と言われますが、誰かが言わなければ、わからないのです。それからは「砂防」と聞けば無理してでも参加するようになりました。長野県の砂防懇談会で国の砂防部、砂防協会の講演を聞いて、色々なことを学んだ気がします。講演のあと、よく質問しましたが、講演会を盛り上げるには、一人くらい質問した方がいいと思って手をあげるのですが、毎回なので、「また泰阜か」、と思われていたはずで申し訳ないことでした。

そんな交流の中で、泰阜でも砂防で守りたい地域があり、お願いしてきましたが、駅もある村で最も危険な温田地籍での砂防工事が始まりました。また、天竜川上流の直轄砂防の仲間にも入れていただきました。砂防協会の事業や会議に参加させてもらい、我々行政の仕事は、人工知能やロボットが解決するのではなく、人と人とのつながりで動いていく、という基本中の基本を学ばせてもらいました。そして、砂防で集まるととにかく楽しい。私も役所では難しい顔をしていたようですが、いま役所も笑いが減り、飲み会も限られた仲間でのつきあいが中心と聞いております。やっぱり、人間社会は、誰とでも楽しく付き合うことが必要で、それも経験させていただきました。退任後、2か月が過ぎ、仕事も忘れましたが砂防協会の懇談会は懐かしく思い出します。

さて、最近の全国の災害を見ておまして、砂防の重要性はますます高まり、国民もその大切さがよくわかっております。全国土を砂防施設ですというわけにはいきませんが、やはりハード整備が必要です。それをリードするのは長野県治水砂防協会です。これからも、ますますの活躍を期待しております。

自然災害多発時代をふりかえる

前小川村長 伊藤 博文



今春、村長を引退するまでの8年の間に土尻川治水砂防協会会長を4年、県治水砂防協会副会長を2年など治水砂防関係の役職につかせていただきました。大過なく務めることができましたのは関係の皆様のご理解とご協力の賜ものと厚く御礼申し上げます。

砂防事業は、多くの人々のたゆまぬ努力により、めざましい成果をあげ地域住民の生命と財産を守っています。しかし、近年の気候温暖化に伴う集中豪雨の頻発や地殻変動活発化による大規模地震の発生は、これまでの治水砂防事業の想定を越す状況となっており、国、県、地方自治体あげて、新たな取り組みで住民を守っていただくようお願い致します。

★降雨量が心配な毎日だった

村長在任中は、雨の量に常に気を使った。自然災害多発時代に入り、住民に対する避難勧告や避難指示を出す市町村長の責任が重視され始めたからだ。私は、どの位の雨量で勧告指示を出すかの腹づもりを決めていた。1日の降雨量は70ミリ、1時間雨量は40ミリを基準にし、前日やそれ以前の雨量を考慮して判断した。弱い地質の本村なりの基準を考える上で県治水砂防協会の定期総会・砂防講演会の災害事例の話は大いに参考になった。勧告を出すまでもないが、住民の中に不安に思っている人がいると判断した時は、「自主避難」を度々、防災行政無線で呼び掛けた。避難場所は村の中心にある保健センターとし、車がない人は村の職員が搬送した。過去には、こうした対応がなかったので一人暮らしや体の不自由な人達に喜ばれた。

★地震はやはり怖い

9月に北海道・胆振地方で発生した震度7の地震で震源に近い厚真町の死者は36人にもものぼり、全員土砂崩れによるものだった。テレビのニュースを見て思い起こしたのは長野県西部地震。仕事で現場に飛んでいったが、御嶽山の山腹が崩壊するなど、一瞬にして20人近くが土砂にのまれ、土砂災害の凄さを見せつけられた。本村も平成26年、震度6弱の神城断層地震で大きな被害となったがやはり、地震は雨による災害よりも避難するチャンスがないから怖い。

地震予知は、まだ、難しいので、まずは地震に耐えられるインフラ整備をしておくことが大事だ。在任中は、村道の落石防止施設や体育館の耐震化など村の力で出来ることには積極的に取り組んだ。政府は国土強靱化に本腰を入れ、補正予算を計上するとしているので、砂防事業も進捗のチャンスになればありがたい。

★現場が教えてくれるもの

全国治水砂防協会の災害現地視察や土尻川砂防協会の研修会には皆勤した。熊本地震の被災地、線状降雨帯の発生で多数の死者を出した広島市の他、富士川砂防、立山砂防、松本砂防、日光砂防などの現場に足を運んだ。

災害現場に立った時、地形や沢筋、斜面の方角、足元の土や岩、周囲の立木を視察していると、共通する不安を五感に感じた。同時に「村のあそこは危ない」というヒラメキもあった。それは、斜面の方角や沢筋の山景が似ている所で、下流には村が開発した住宅と村営住宅があり、土砂が流れ下れば大変なことになる。いま、砂防事務所の理解を得て、継続事業で、砂防堰堤整備が進んでいる。

天災は、忘れないうちに次々起こる、いやな時代だ。永年積み上げてきた防災科学や技術を駆使し、さらに地域ごとに持っている災害の歴史と経験を生かして住民を守っていただくようお願い致します。

着任の挨拶



国土交通省 関東地方整備局 富士川砂防事務所
所長 萬徳 昌昭

4月1日付で富士川砂防事務所長を拝命しました萬徳と申します。どうぞよろしくお願いたします。以前、越後湯沢の湯沢砂防事務所に平成21年～23年の3か年に亘り務めさせていただきました。

その折も長野県治水砂防協会の各位には大変お世話になりました。今回、富士川砂防事務所勤務ということで再びお世話になります。

当事務所におきましては、富士川水系の早川流域、釜無川流域を担当させていただいており、長野県では富士見町にかかわる県境付近での砂防事業を担っております。

事務所の基本方針として、次の3点を掲げています。

① 根幹的な土砂災害対策施設の整備

大規模崩壊地をはじめとした、南アルプスの荒廃地からの土砂の生産・流出をコントロールし、富士川水系の安全を確保するため、流域で根幹をなす砂防施設の整備を推進します。

今年度は、過去に災害のあった釜無川流域では、支川武智川において沿川集落を保全するための床固群や支川黒川において上流部の崩壊地からの土砂流出を抑制する砂防堰堤、支川小武川において洪水の安全な流下を図る床固群、また、土砂流出の著しい早川流域では、支川内河内川における砂防堰堤及び七面山の崩壊地等、土砂生産が活発な支川春木川（池の沢）等において砂防堰堤等を整備します。

② 要配慮者関連施設を保全するための施設整備

土砂災害の犠牲となり易い自力避難が困難な要配慮者が利用する福祉施設などを保全するための砂防施設を整備します。

今年度は、土砂生産が活発で昭和34年に大きな災害が発生した釜無川流域の支川大武川及び早川流域の支川塩島沢等において、砂防堰堤の整備を推進します。

③ 総合的な土砂災害対策の推進

地震や洪水による深層崩壊や河道閉塞（天然ダム）の形成といった大規模土砂災害などから尊い人命を保全するためのソフト対策として、土砂災害発生時における県及び市町と連携した危機管理体制の強化や情報提供のためのシステム整備を推進します。

平成30年度の長野県関係の事業といたしましては、武智川下流床固群の整備、釜無川流域左岸施設改築、釜無川上流左岸山腹工、釜無川流域右岸砂防施設改築などの事業を実施してまいります。

これらの事業実施はいずれも地元自治体、県及び県議会、国会議員の方々それぞれのたゆまないご支援のたまものだと認識しております。今後ともよろしくご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

末尾になりますが長野県治水砂防協会の益々のご繁栄と会員各位の益々のご健勝をご祈念申し上げてご挨拶とさせていただきます。



富士川流域砂防連絡会での調印式の様子（富士見町、北杜市、韮崎市、南アルプス市、早川町、長野県、山梨県、富士川砂防事務所での構成）

着任の挨拶

国土交通省 関東地方整備局 湯沢砂防事務所
所長 赤沼 隼一



4月1日より湯沢砂防事務所長を拝命いたしました赤沼隼一（あかぬまじゅんいち）です。よろしく御願いたします。湯沢砂防事務所は、新潟県南魚沼郡湯沢町に位置し、信濃川の支川である魚野川、清津川、中津川の各流域で直轄砂防事業を実施しています。事業範囲は新潟県（長岡市、小千谷市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町）と長野県（栄村、木島平村、山ノ内町）にまたがり、合計すると2,000km²を超え、全国の直轄砂防事務所のなかでも有数の規模を誇っています。管内は、上信越高原国立公園、越後三山只見国立公園の一部を含み、谷川岳や苗場山、烏甲山などの2,000m級の山々に囲まれ、豊かな自然環境を有する一方で、急峻な河床勾配や花崗岩をはじめとする火山性の脆弱な地質から構成され、土砂生産・流出が活発です。直轄砂防事業に着手する契機となった昭和10年の魚野川水害、昭和23年アイオン台風、昭和50年代後半の水害や平成23年新潟福島豪雨等、過去幾度も土砂災害による被災を経験してきました。また十日町断層や六日町断層等活断層も存在し、平成16年中越地震や平成23年長野県北部地震による被害も記憶に新しいところです。赴任早々の5月には栄村で震度5強を観測する地震もありました。今年度も西日本を中心とした7月豪雨や台風21号、北海道胆振東部地震等全国各地で大規模災害が発生しています。管内においては、大規模な土砂災害の発生にまでは至りませんでしたが、災害発生時において迅速且つ円滑に対応ができるよう、日々準備を進めるとともに、日頃より地元自治体との良好な関係を構築し、危機管理に万全を尽くしていきたいと考えています。また平成29年5月には飯山市井出川において斜面崩落に伴う土石流が発生して下流域における地域住民の生活や交通インフラにも影響が出ました。管内の自治体はもとより、隣接した地域や自治体における災害時にもしっかりと支援できるよう顔の見える関係を築いていきたいと思っております。

長野県内では中津川の上流域である栄村内で砂防堰堤等を建設する事業を実施してきました。酸性河川である硫黄沢、秋山郷における最大の集落を流れる小赤沢等精力的に砂防堰堤の整備を進めてきました。近年ですと、平成20年代の半ばの中小出水により河岸が崩落したりするなどの被害が出ています。現在、中津川の上流域における砂防堰堤の新設や屋敷温泉周辺における斜面对策を重点的に実施しています。秋山郷という日本の秘境、昔の原風景が残る観光地域、またこの地域の唯一の幹線道路である国道405号を守るうえで重要な事業であると考えています。

本事務所は昨年度、直轄事業着手から80年を迎えました。過去からの砂防堰堤や流路工の整備等により地域の安全性の向上に寄与するとともに、周辺の土地利用の高度化や開発が進展し、高規格道路整備や観光・リゾート施設の進出、全国規模で事業を展開する企業の工場立地や工業団地造成、地域の目玉となる農産物の生産の場など、管内地域の生活はもちろん、物流や事業活動、サプライチェーンという管内に留まらない広域的な経済活動を守ることもつながっています。今後の地域計画や将来展望も踏まえ、自らが何を守っているのか、何を守るべきなのか、常に意識をしながら事業を進めるべきだと考えています。また地域住民、地元自治体及び地元建設業者の御理解や御協力のもと事業が成立しています。今後もこの気持ちを忘れず感謝の心を持って、地元のタイムリーな声や要望にしっかりと耳を傾けながら砂防事業の推進に努めて参ります。今後とも、引き続き御支援、御協力頂きますよう、よろしく御願いたします。



紅葉が素晴らしい秋山郷と中津川



中津川上流域における砂防事業実施状況

着任の挨拶



国土交通省 北陸地方整備局 松本砂防事務所
所長 石田 孝司

本年4月に国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所長を拝命した石田孝司です。皆様にはいろいろとお世話になりますが、前任の五十嵐同様にどうぞよろしくお願い申し上げます。

私、出身は飛驒の高山市（旧吉城郡上宝村）であり、飛驒山脈を挟んで松本市安曇の向こう側になります。明治4年の廃藩置県によって設置された筑摩県の時代には、5年足らずの短い期間とはいえ飛驒は、中南信と同じ県だったという歴史があるほか、古くから信州と飛驒とは野麦街道などを通じて人的・経済的な深い繋がりがあったようです。信州での勤務は初めてとなりますが、伯父伯母や従兄が信州で暮らしていて、お互いが頻繁に往き来していたこと、さらにはこちらの大学に6年間在籍していたこともあって、私にとってはたいへん馴染みが深く、昔からとても好きな場所である信州に暮らせることを大変嬉しく感じています。「生まれ育った岐阜県よりも長野県のことの方が詳しいね」と、妻からはよく（皮肉を？）言われていたくらいです。

ここで、少し故郷の紹介をさせていただきます。実家の前を流れる双六川は飛驒山脈に端を発し、普段はとても綺麗で冷たい水が流れています。小中学生の頃の夏休みは、正午過ぎから16時近くまで、近所の仲間たちと川で過ごし、唇を紫色にしながらいだり岩から飛び込んだりの毎日でした。今でも夏休みにはここで息子たちを泳がせています。ただし大雨が降ると増水し、飛び込みに使っている岩は隠れ、ものすごい勢いで濁流が流れる姿を幾度となく目の当たりにし、自然の怖さを子供心に感じることもありました。そして、小学5年の夏休みが終わる頃、村内の隣の校区になりますが、洞谷で発生した土石流によって栃尾地区では大きな被害が生じました。その後しばらく経って、親に連れて行ってもらった時に見た現地の状況は今も頭に残っています。この災害は私にとっての原体験であり、砂防の仕事を目指すきっかけとなりました。

さて、松本へ来てからいろいろな場所を訪れましたが、最も印象深いところをあえて挙げるとすれば、牛伏川の砂防事業でしょうか。初夏の休日、愛用のカメラを片手に、初めて当地を訪れました。施工後100年以上が経過してなお、石積みの砂防堰堤や石張りの階段工・水路工がしっかりと役割を果たしている姿に心を打たれました。さらには、施設周辺の手入れが丁寧になされ、施工直後の写真や解説が分かりやすく掲示されているなど管理が行き届いていることにも感動したのですが、地元有志の皆様の方によるところが大きいと聞いて、頭が下がる思いでした。信濃川河口の港の土砂堆積対策を目的として明治時代より牛伏川をはじめ信濃川上流域の多くの支川で砂防事業が行われたという事実、そして今なお山と溪流をしっかりと治めている姿を多くの人に知ってもらいたいと率直に思いました。同時に、私たちが今進めている砂防事業も、末永く地域の皆様から大切にされるものでありたいと改めて思いました。

松本砂防事務所の事業管内である飛驒山脈は数百万年前より隆起が続いているようであり、隆起に伴って浸食と土砂生産も進行します。また火山周辺では熱水変質などにより地盤が風化し脆弱化します。管内の溪流や斜面を見てまわりましたが、荒廃地や浸食の著しい斜面を背後に抱え、土砂生産が活発な溪流が多いことを認識しました。また、姫川水系の浦川は1911年の稗田山大崩壊から100年以上経っても山腹に残る不安定土塊から活発な土砂生産が続いており、崩壊の傷跡が未だ癒えていないことを実感しました。

溪流や斜面という「自然」に対して最小限の手を加えることで土砂災害防止と国土保全という最大限の効果を得ることが「砂防」の真骨頂であると考えています。地域や流域の安全・安心のため、自然や景観に配慮しながら地域の発展にも資する“いい仕事”をしていきたいと考えておりますので、皆様方のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

着任の挨拶



国土交通省 中部地方整備局 多治見砂防国道事務所
所長 植野 利康

本年4月1日付で多治見砂防国道事務所長として着任しました植野利康です。長野県治水砂防協会の皆様には、様々な面でお世話になりますが、宜しくお願いいたします。

長野県は地質や地形、気象条件など県土の広さから各地域で違いはあるものの、基本的に急峻な地形と脆弱な地質条件であり、土砂災害が発生しやすい県土であると実感しております。このような状況の中、全国に先駆けて活動を開始されかつ活発に継続されている長野県治水砂防協会の皆様に尊敬と感謝の念を抱くとともに、本県の土砂災害の防止に関わることができる機会を得たことに緊張とやり甲斐を感じております。

さて、多治見砂防国道事務所は長野県上松町、大桑村、南木曾町の木曾川水系左岸側において平成29年度補正予算及び平成30年度当初予算を含め約17億円余で砂防事業を推進しています。

上松町では、上流に崩壊地を抱える滑川流域において連続した床固工を配置する「滑川遊砂工」の整備等を進めています。

大桑村では、日本最大級の鋼製スリット高さ21.0mとなる「越百第3砂防堰堤」の建設工事を継続実施するほか、平成25年8月の豪雨で国道19号に土砂が流出するなどの災害が発生した下在蛇抜沢及びその周辺の砂防堰堤工群や、下洞沢砂防堰堤、細久保沢砂防堰堤の整備等を進めてまいります。

南木曾町では、平成26年7月に大規模な土砂災害が発生した梨子沢において、昨年度、砂防堰堤や流路工等の災害復旧関係事業が完了しました。また、土砂流出の著しい溪流である和合蛇抜沢沈砂地工整備のための工事用道路や、桜洞砂防堰堤の整備等を進めています。

また、平成26年9月27日の御嶽山噴火災害への関係機関における相互連携の災害対応経験を活かし、御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会等を通じて、噴火シナリオや緊急減災計画の見直しを進め、昨年度「基本編」を策定しました。引き続き「対策編」を検討してまいります。

なお、本年は木曾川上流域の直轄砂防事業に着手して40年の節目を迎え、10月5日に木曾川直轄砂防推進協議会主催による記念式典が大桑村にて開催されました。

今年は管内においても台風や前線等による大雨が続いています。

8月16日の大雨では、大桑村矢垂沢等において集落に繋がる生活道路に土砂が流出し、一時29世帯98名が孤立状態となりました。当事務所からは、夜間の土砂撤去作業を支援するために照明車を派遣したところです。また、建設中の越百第3砂防堰堤は土砂及び流木を捕捉し、下流への被害を防止しました。

台風21号に伴う9月4日の大雨では、増水により木曾川に架かる大桑橋の一部が落橋しました。添架していた水道管の仮復旧を支援するために照明車を派遣しました。また上松町の十王沢第1砂防堰堤が、流出した流木等を捕捉し、下流への被害を防止しました。

9月19日には、工事受注業者から上松町の滑川上流に崩壊跡を確認したとの一報を受け、ヘリコプターによる調査を行った結果、土砂崩壊を確認しました。なお、崩壊箇所の下流には滑川第1砂防堰堤等があり、容量は確保されている状況です。

今後とも、木曾地域の安全・安心の確保のため、直轄砂防事業に全力で取り組んでまいります。



建設中の越百第3砂防堰堤

《砂防ボランティアだより》

長野県砂防ボランティア協会

●平成30年度長野県砂防ボランティア協会総会を開催

平成30年6月14日に長野市生涯学習センターで、平成30年度長野県砂防ボランティア協会総会を開催しました。過去最高の159名の会員が出席し、平成29年度の事業報告・会計報告、平成30年度の事業計画等が承認されました。

総会に続く講習会では、3名の方から、それぞれの立場から講演していただきました。最初に長野県建設部田下昌志砂防課長から、「学びと自治で拓く長野県の砂防」と題して最近の長野県砂防行政について講演していただきました。また、国土技術政策総合研究所 交流研究員 小松美緒様からは、「国総研の紹介と近年の土砂災害」と題して講演をいただきました。毎年国内で起こる大災害についてお話していただきました。



内山会長による挨拶



講演を聴講する会員の方々

特に、昨年の九州豪雨に関する事例からは、昨今の災害の問題点について伺うことができました。

最後は、「けもかわプロジェクト」代表井野春香様から講演をしていただきました。井野様は、狩猟を行いながら、その毛皮を使い製品として事業展開をされておられ、以前には動物の飼育を行っていたそうですが、動物と深く関わるにつれて、人と獣の関わりということを考えるようになられました。そのような中で、狩猟をする機会に出会い、狩猟活動を続けていくなかで、動物との接点も多く身近に関わることにより、動物—自然—人間の関係について井野様が日頃感じているテーマについて、講演をしていただきました。講演を通して、狩猟となじみがない私たちにとっては新鮮な話題であり、興味を持って聴講することができました。

最後は、「けもかわプロジェクト」代表井野春香様から講演をしていただきました。井野様は、狩猟を行いながら、その毛皮を使い製品として事業展開をされておられ、以前には動物の飼育を行っていたそうですが、動物と深く関わるにつれて、人と獣の関わりということを考えるようになられました。そのような中で、狩猟をする機会に出会い、狩猟活動を続けていくなかで、動物との接点も多く身近に関わることにより、動物—自然—人間の関係について井野様が日頃感じているテーマについて、講演をしていただきました。講演を通して、狩猟となじみがない私たちにとっては新鮮な話題であり、興味を持って聴講することができました。

●長野県砂防ボランティア協会NPO設立総会が開催されました。

ボランティア協会の会員数は平成27年以降大幅に増加し、本年は444名を数え（平成30年4月1日現在）会員数全国一位の協会になりました。これは、砂防ボランティア活動への関心の深まりだと感じております。砂防ボランティアは災害時の施設点検や各危険箇所点検、災害に対する教育活動に毎年多くの会員が活躍しております。また、長年の砂防関係の経験を活かし、そのスキルを存分に発揮して、活動を続けております。会員が急増したことにより、自立・独立性を高め、透明性の確保と、より多くの会員が活動に参加できる環境を整えるべく、協会のNPO法人化を検討していきたいところです。



NPO設立総会

NPO法人化の一步として、平成30年度長野県砂防ボランティア協会総会に引き続き設立総会を開き、多くの会員の皆様からNPO設立の賛同を得ることができました。

今後は関係部局との協議等を経て、今年度内のNPO法人設立を目指してまいります。

●平成30年度の主な活動について〈土砂災害防止月間に伴う危険箇所点検パトロール〉



危険箇所パトロール

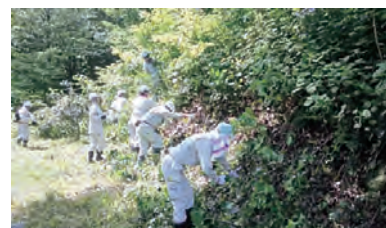
6月の土砂災害防止月間にあわせ、建設部現地機関と合同で土砂災害危険箇所や砂防施設の点検パトロールを実施しています。今年度は13建設事務所及び3砂防事務所から派遣要請があり、延べ49名の砂防ボランティア協会会員が地元警察署、消防署、市町村、地方事務所、自治会代表者などの方々と184箇所の点検パトロールを実施しました。点検には砂防や地すべりにおける専門的な知識と経験が必要であり、当協会員の参加が重要となっています。

●歴史的施設の維持管理活動

当協会では例年地域の皆さんとの協働による草刈り及び砂防施設点検を実施しています。今年も砂防ボランティア協会員が参加し、小川村薬師沢、松本市牛伏川、千曲市荏沢川を対象に汗を流しました。

本年度は、牛伏川において「牛伏階段工完成 100周年記念行事」が開催されることから、とりわけ丁寧な草刈り作業をしました。

長野県砂防ボランティア協会ではこのような地域と連携した土砂災害防止活動に携わり、地域防災力の向上に貢献しています。



維持活動風景（牛伏川）

●事務局からのお願い

地域の防災活動などで砂防ボランティアの派遣を希望される方は、長野県砂防ボランティア協会事務局（長野県建設部砂防課地すべり係内）までご相談ください。

平成30年4月 長野県建設部砂防課人事異動

◎転入

企画幹兼地すべり係長へ

細川 容宏（飯田建設事務所）

総務係へ

山田 佳代（義務教育課）

砂防係へ

矢澤 祥道（北信建設事務所）

地すべり係へ

池部 功一（飯田建設事務所）

◎転出

奈良井川改良事務所長へ

松本 寛（企画幹兼地すべり係長）

木曾地域振興局（南木曾町派遣）

平林 隼（総務係）

須坂建設事務所 維持管理課へ

傳田 利光（砂防係）

飯田建設事務所 整備課へ

関 達也（調査管理係）

長野県治水砂防協会 平成30年行事等経過・予定

2月15～16日	第58回砂防および地すべり防止講習会	東京都：砂防会館別館
5月24日	（一社）全国治水砂防協会通常総会	東京都：砂防会館別館
〃	長野県治水砂防協会砂防講演会	東京都：砂防会館別館
6月14日	長野県砂防ボランティア協会総会	長野市：長野市生涯学習センター
8月1日	第5回土砂災害対策実務講習会	東京都：砂防会館別館1階
8月3日	第80回長野県治水砂防協会通常総会	長野市：メルパルクNAGANO 3階
8月28日	緊急要望活動	議員会館、国土交通省、財務省
10月18～19日	重要文化財 牛伏川階段工100周年記念事業	松本市：Mウイング
10月25～26日	第7回砂防現地視察と討論会	福岡県：朝倉市 （県内町村長5名参加）
11月8日	「歴史から学ぶ地域防災」夜間瀬川直轄砂防施工100周年記念シンポジウム	山ノ内町：文化センター
11月20日	全国治水砂防促進大会	東京都：砂防会館別館
〃	大会終了後、要望活動	議員会館、国土交通省

●第63号 編集・発行 長野県治水砂防協会 〒380-8570 長野市大字南長野幅下692-2 県庁砂防課内
TEL：026(232)0144 E-mail：n-sabo@sky.plala.or.jp